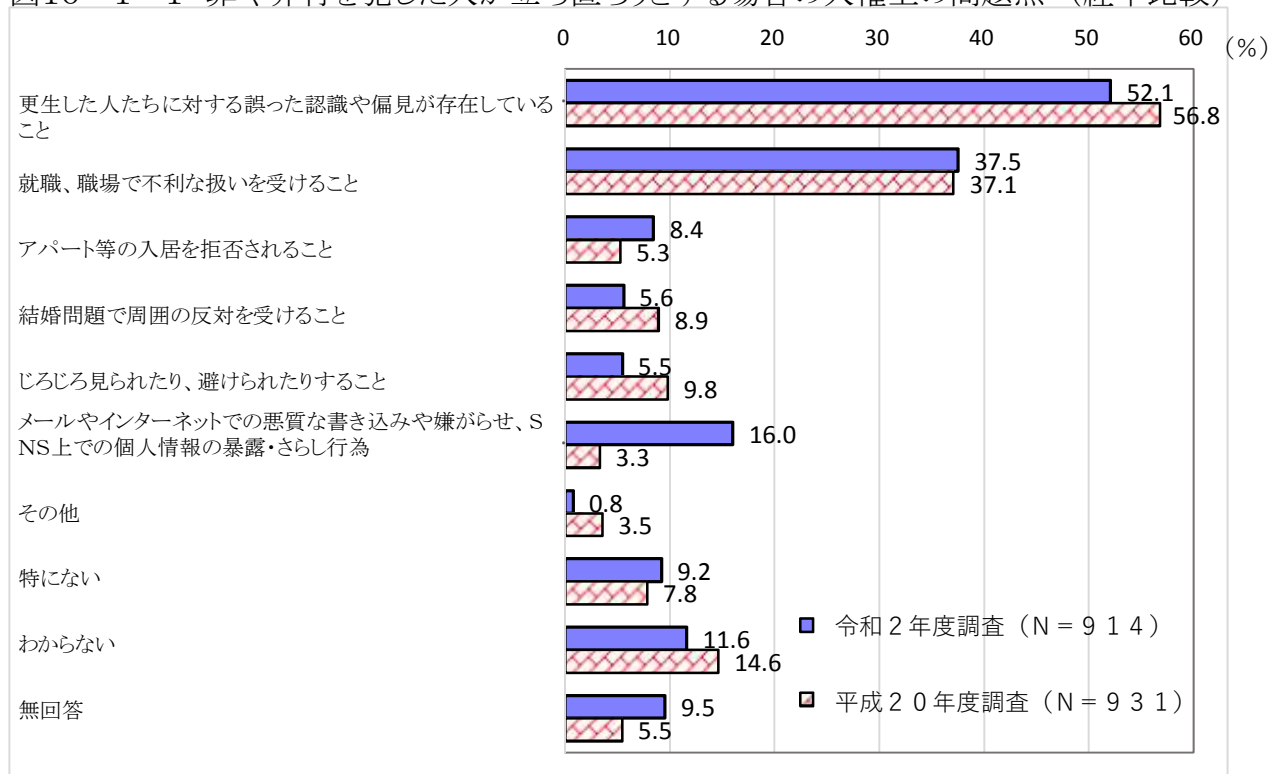


(6) 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点と見聞

(ア) 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点

問10 あなたは、罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会の一員として立ち直ろうとする場合、どのような問題があると思われますか。(✓は2つまで)

図10-1-1 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点 (経年比較)

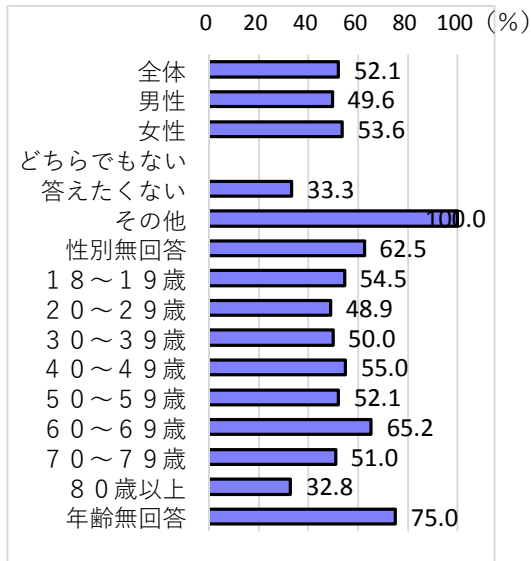


罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題を尋ねたところ、「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」と答えた人が52.1%で最も高く、次いで、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(37.5%)、「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」(16.0%)、「アパート等の入居を拒否されること」(8.4%)と続いている。

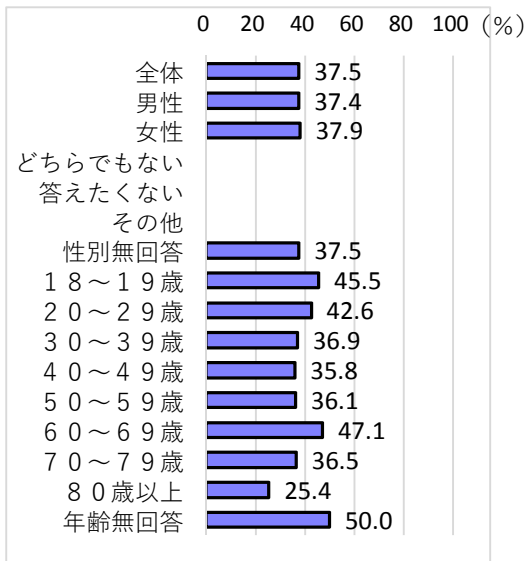
平成20年度調査結果と比較すると、「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」は12.7ポイント高く、次いで、「アパート等の入居を拒否されること」が3.1ポイントと高くなっている。

図10-1-2 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点（性・年齢別）

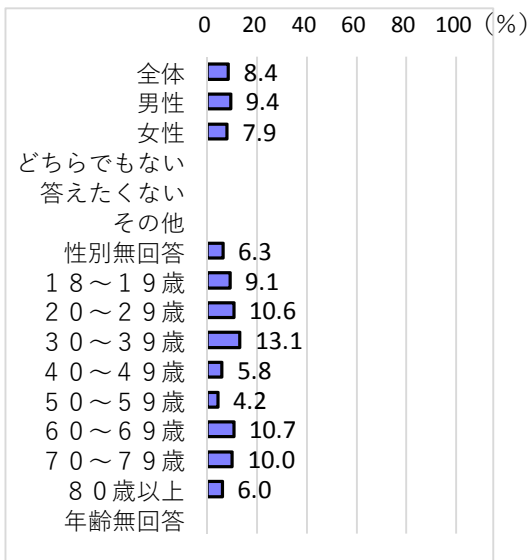
更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること



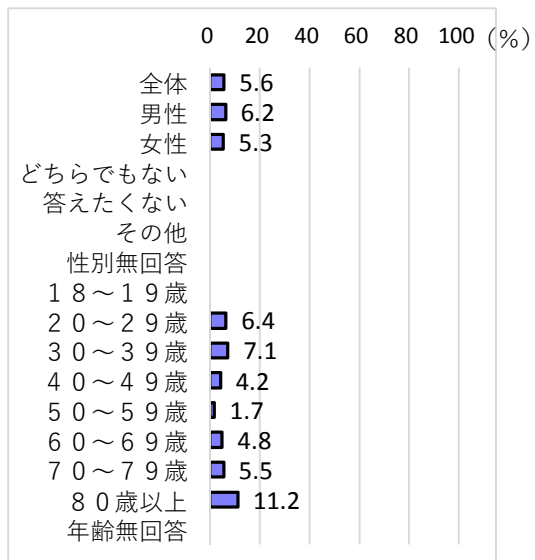
就職、職場で不利な扱いを受けること



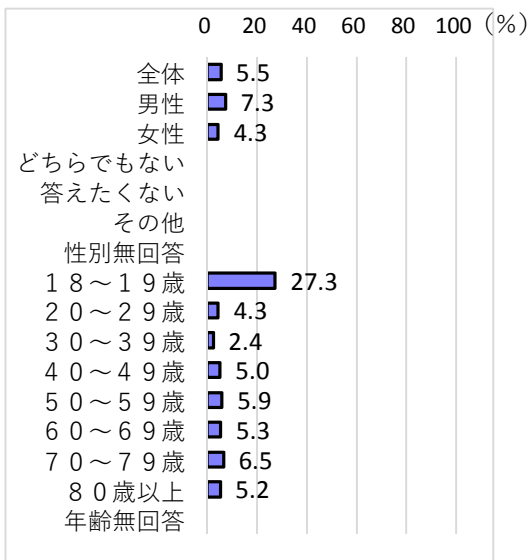
アパート等の入居を拒否されること



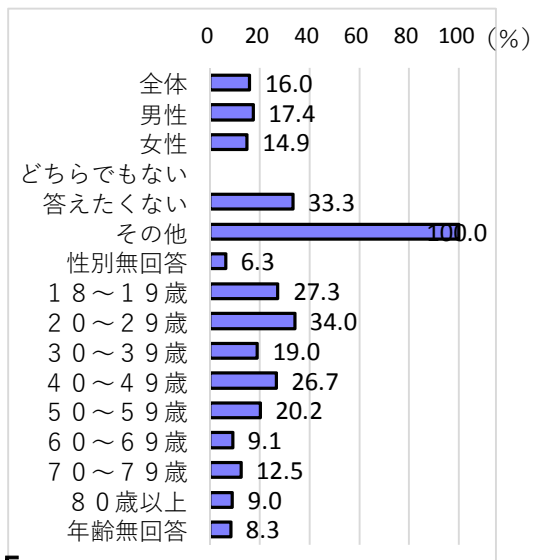
結婚問題で周囲の反対を受けること



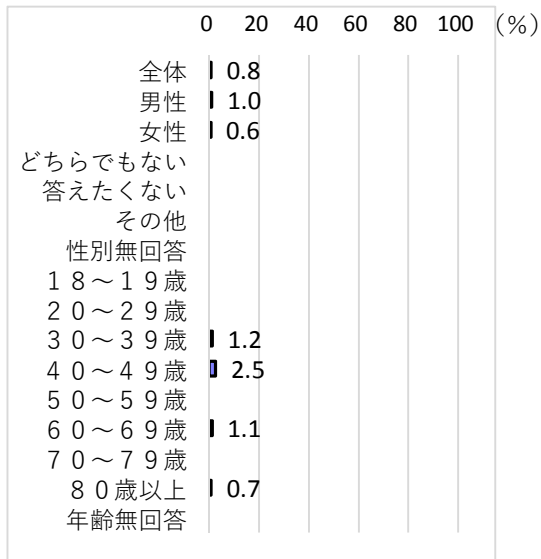
じろじろ見られたり、避けられたりすること



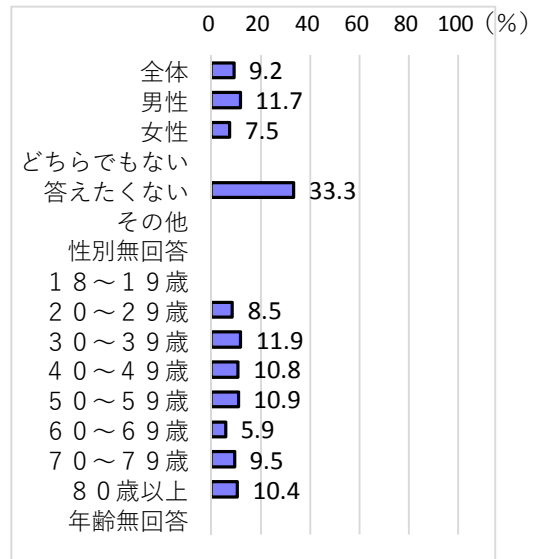
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



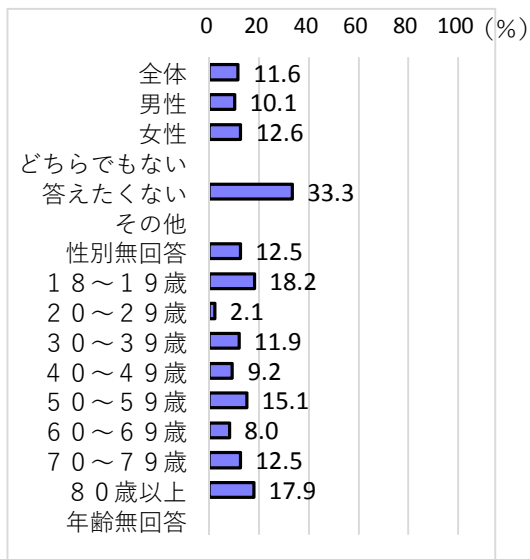
その他



特にない



わからない



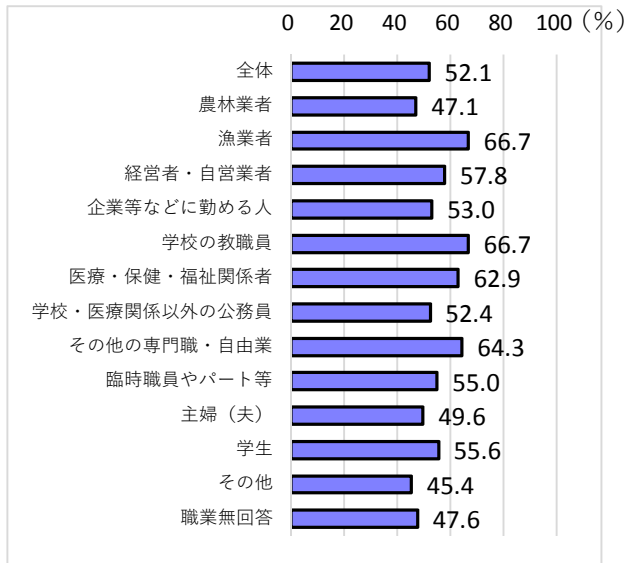
全体	(N=914)
男性	(N=385)
女性	(N=509)
どちらでもない	(N=0)
答えたくない	(N=3)
その他	(N=1)
性別無回答	(N=16)
18～19歳	(N=11)
20～29歳	(N=47)
30～39歳	(N=84)
40～49歳	(N=120)
50～59歳	(N=119)
60～69歳	(N=187)
70～79歳	(N=200)
80歳以上	(N=134)
年齢無回答	(N=12)

罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点について性別にみると、男女ともに「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が最も高くなっている。また、男性は女性に比べ「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(3.0ポイント差)の回答割合が高く、女性は男性に比べ「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」(4.0ポイント差)の回答割合が高くなっている。

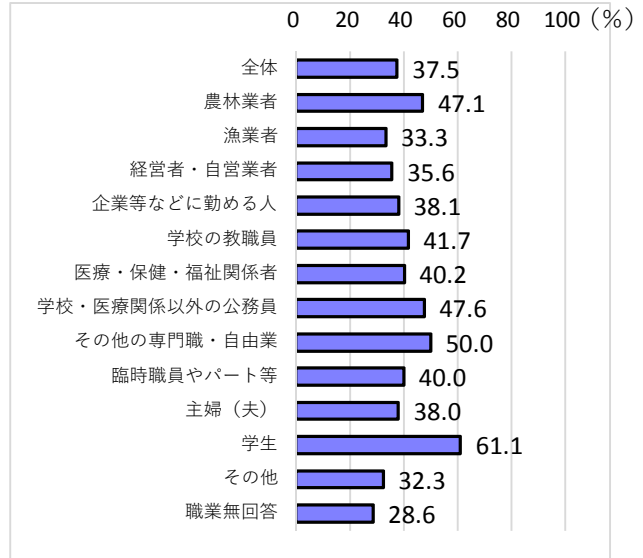
年齢別にみると、すべての年齢で「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が最も高くなっている。特に60歳～69歳では65.2%となっている。

図10-1-3 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点（職業別）

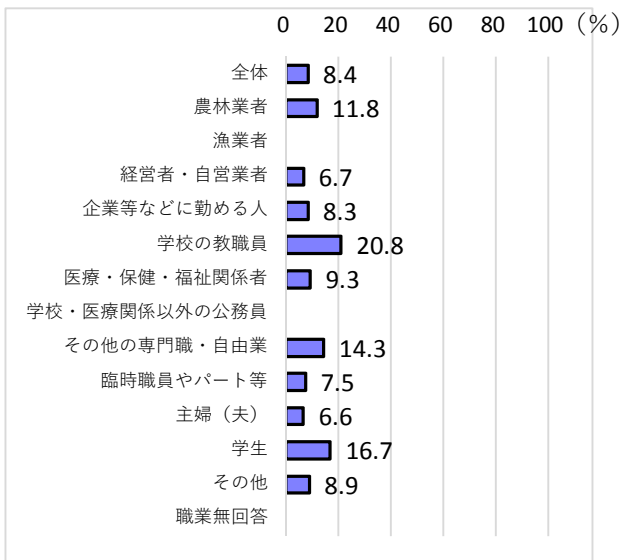
更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること



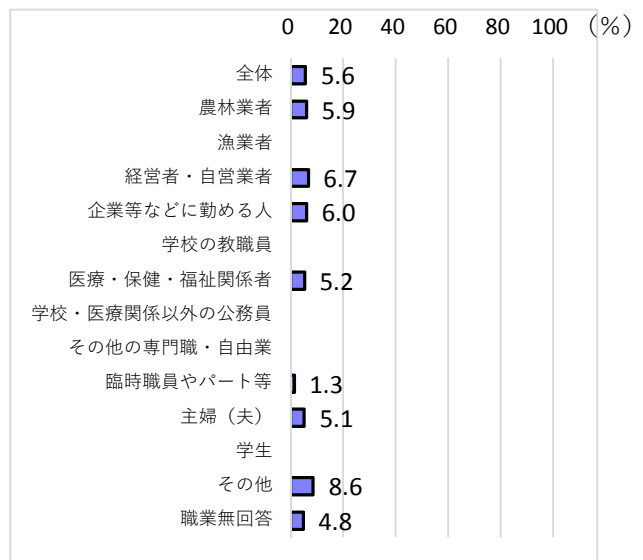
就職、職場で不利な扱いを受けること



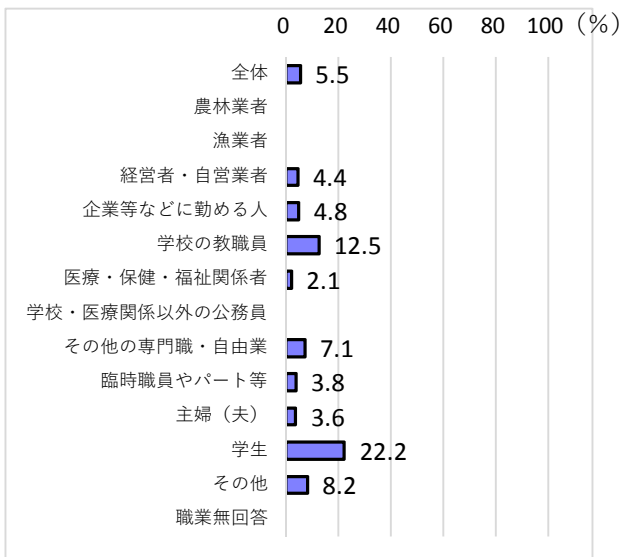
アパート等の入居を拒否されること



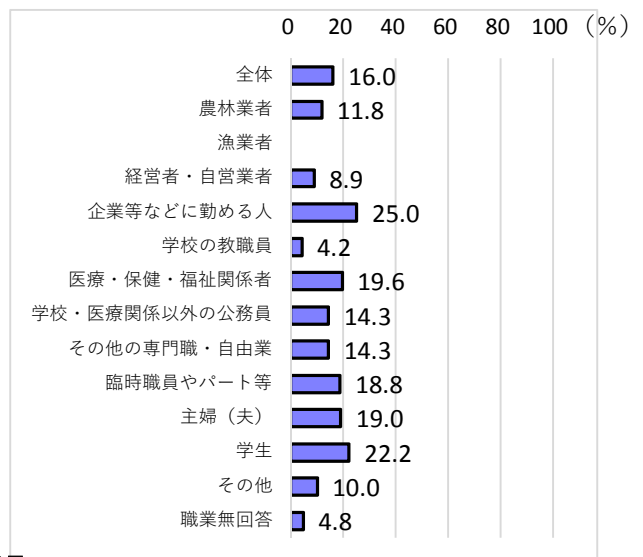
結婚問題で周囲の反対を受けること



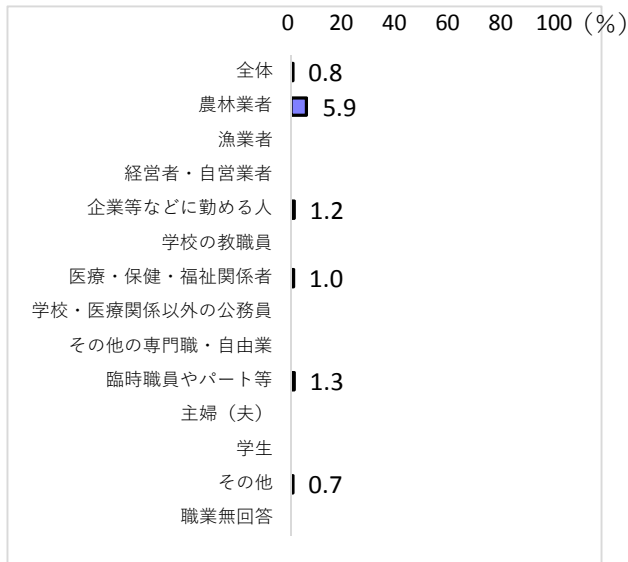
じろじろ見られたり、避けられたりすること



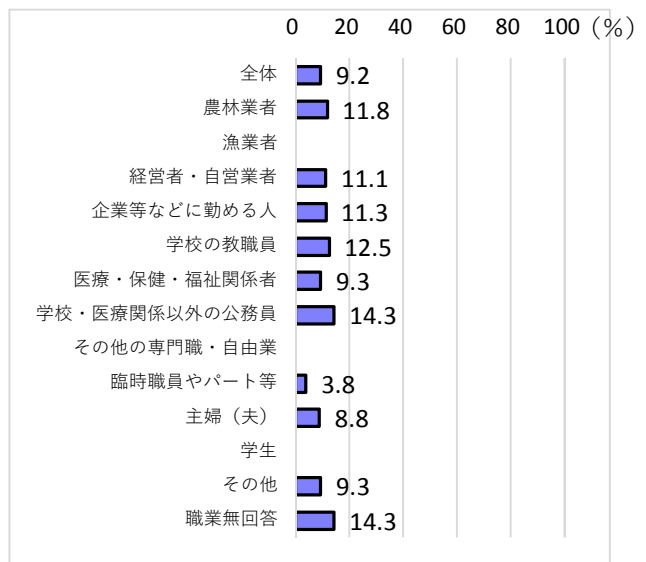
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



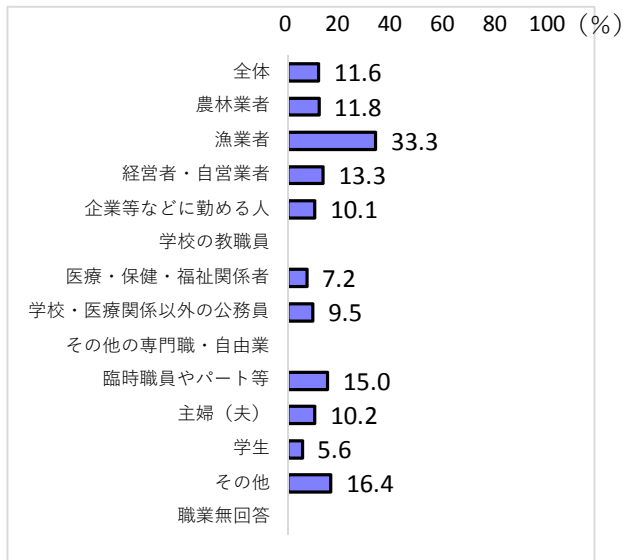
その他



特にない



わからない



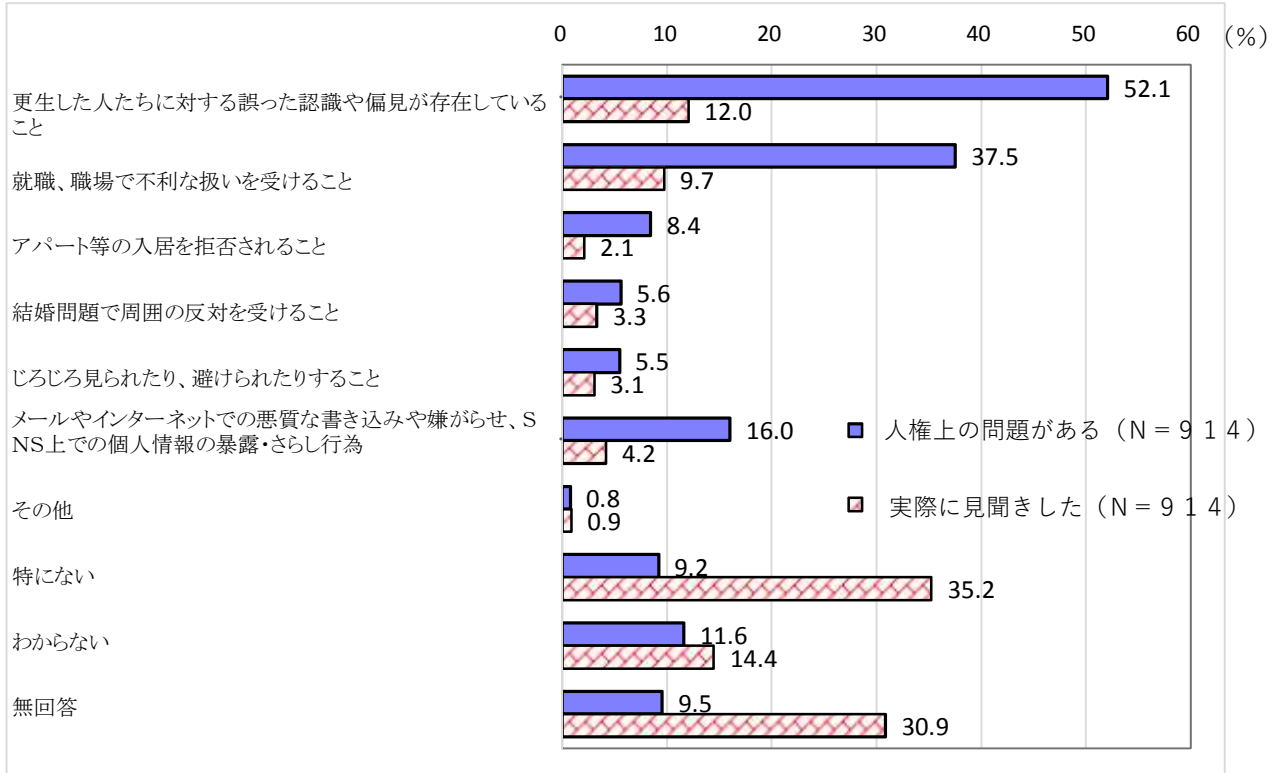
全体	(N=914)
農林業者	(N=17)
漁業者	(N=3)
経営者・自営業者	(N=45)
企業等に勤める人	(N=168)
学校の教職員	(N=24)
医療等の関係者	(N=97)
その他の公務員	(N=21)
他の専門職・自由業	(N=14)
臨時職員・パート等	(N=80)
主婦（夫）	(N=137)
学生	(N=18)
その他	(N=269)
職業無回答	(N=21)

罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点について職業別にみると、学生以外の職業において「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が最も高くなっている。また、学生では「就職、職場で不利な扱いを受けること」(61.1%)の回答割合が最も高くなっている。

(イ) 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題を見聞きした経験

問10 また、あなたが、過去5年間に、実際に見聞きしたのがありますか。(✓は2つまで)

図10-2-1 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題を見聞きした経験 (問題点・見聞比較)

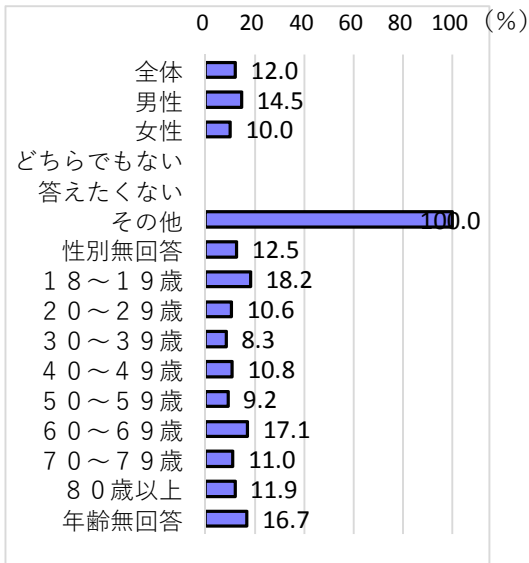


罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題について「見聞きした経験」をみると、「更生した人々に対する誤った認識や偏見が存在していること」と答えた人が12.0%、次いで、「就職職場で不利な扱いを受けること」(9.7%)、「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」(4.2%)と続いている。

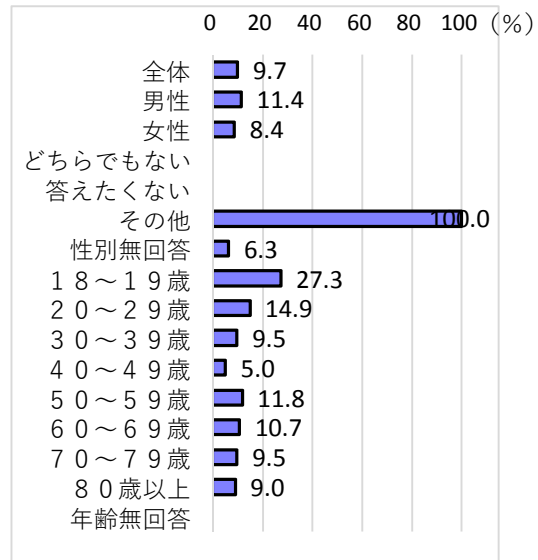
また、罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題について「見聞きした経験」と「問題点」を比較すると、具体的な事象を表す選択肢の回答割合については、すべて「見聞きした経験」が「問題点」の回答割合を下回っている。「結婚問題で周囲の反対を受けること」については、「見聞きした経験」と「問題点」の回答割合が、2.3ポイント差、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」については、「見聞きした経験」と「問題点」の回答割合が、2.4ポイント差と近似値になっている。

図10-2-2 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題を見聞きした経験
(性・年齢別)

更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること



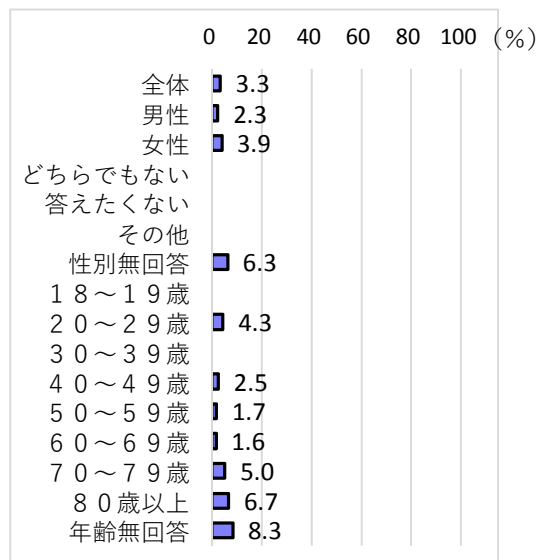
就職、職場で不利な扱いを受けること



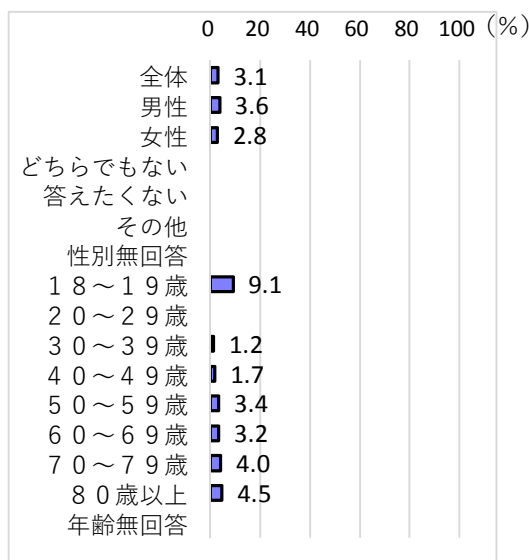
アパート等の入居を拒否されること



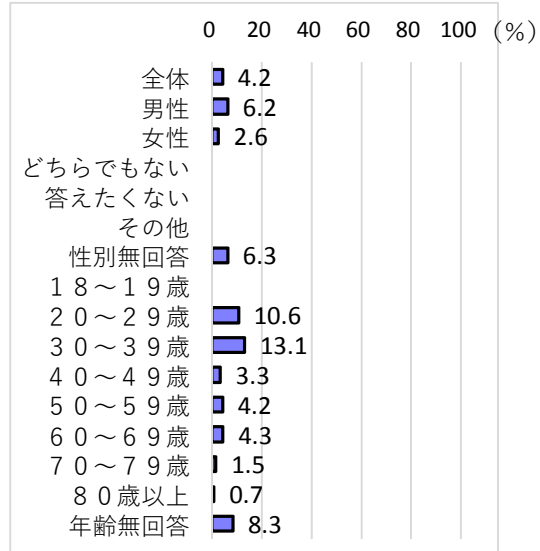
結婚問題で周囲の反対を受けること



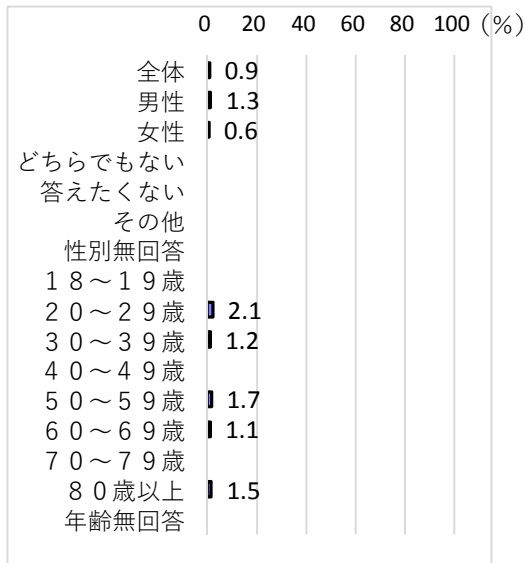
じろじろ見られたり、避けられたりすること



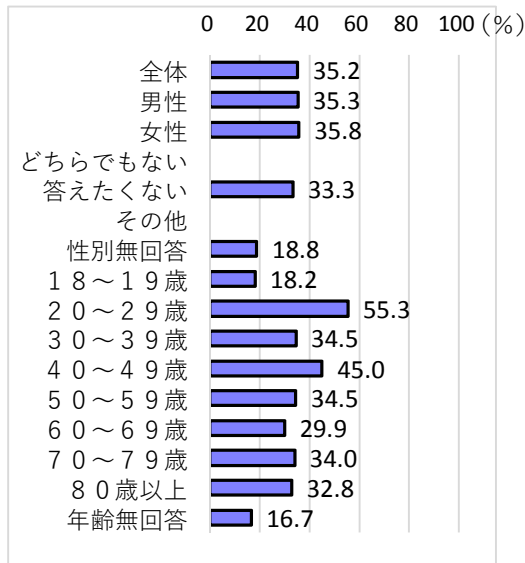
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



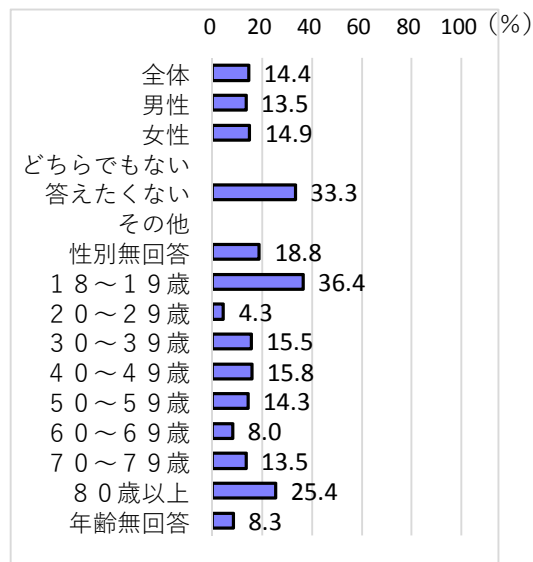
その他



特にない



わからない



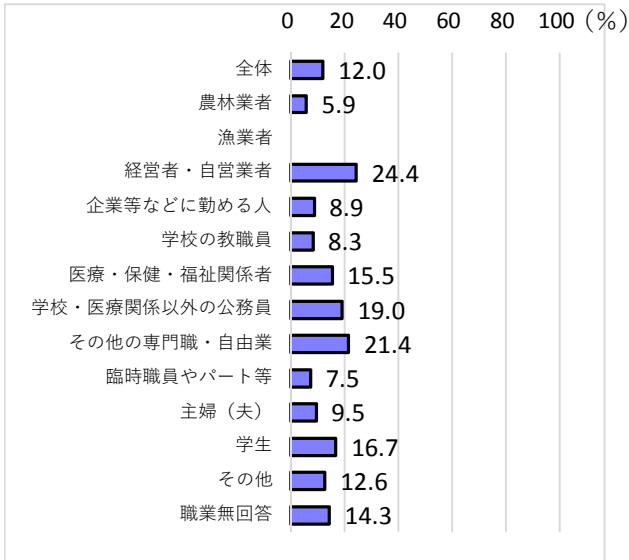
全体	(N=914)
男性	(N=385)
女性	(N=509)
どちらでもない	(N=0)
答えたくない	(N=3)
その他	(N=1)
性別無回答	(N=16)
18～19歳	(N=11)
20～29歳	(N=47)
30～39歳	(N=84)
40～49歳	(N=120)
50～59歳	(N=119)
60～69歳	(N=187)
70～79歳	(N=200)
80歳以上	(N=134)
年齢無回答	(N=12)

罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題の「見聞きした経験」について性別にみると、男女ともに「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が最も高くなっている。

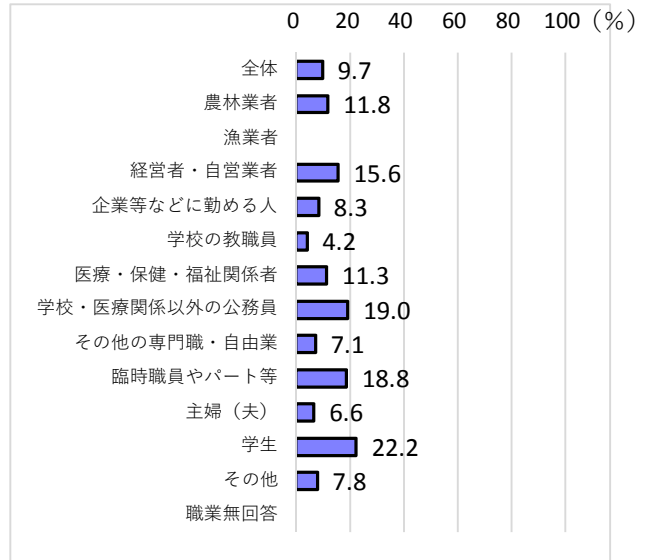
年齢別にみると、40歳～49歳、60歳以上では「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が最も高く、29歳以下、50歳～59歳では「就職、職場で不利な扱いを受けること」、30歳～39歳は「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」(13.1%)の回答割合が最も高くなっている。

図10-2-3 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題を見聞きした経験（職業別）

更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること



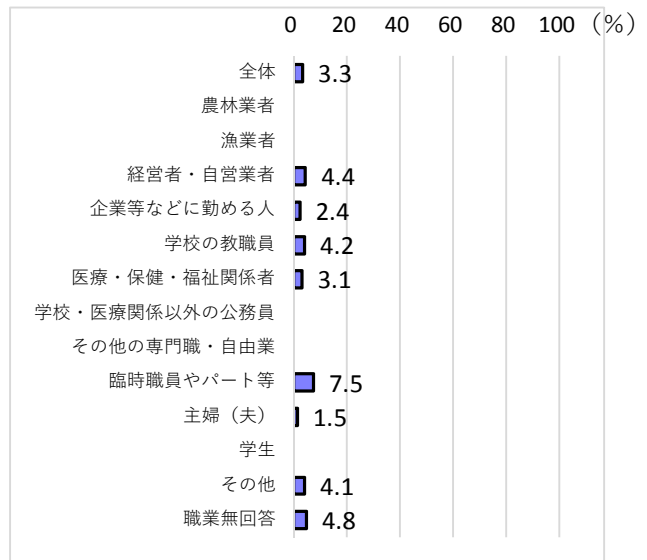
就職、職場で不利な扱いを受けること



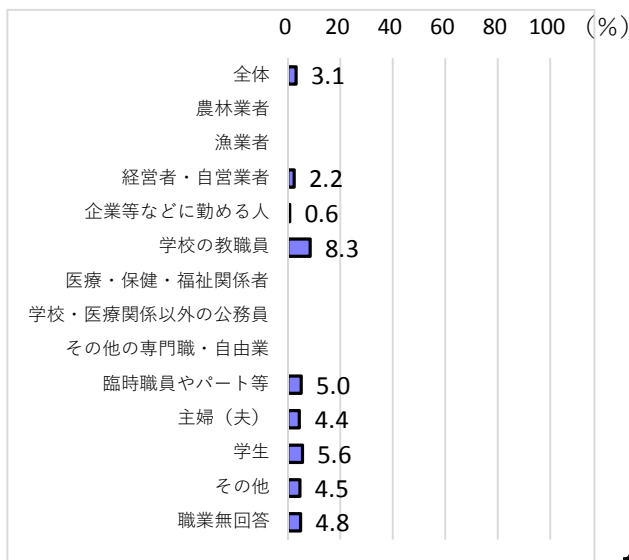
アパート等の入居を拒否されること



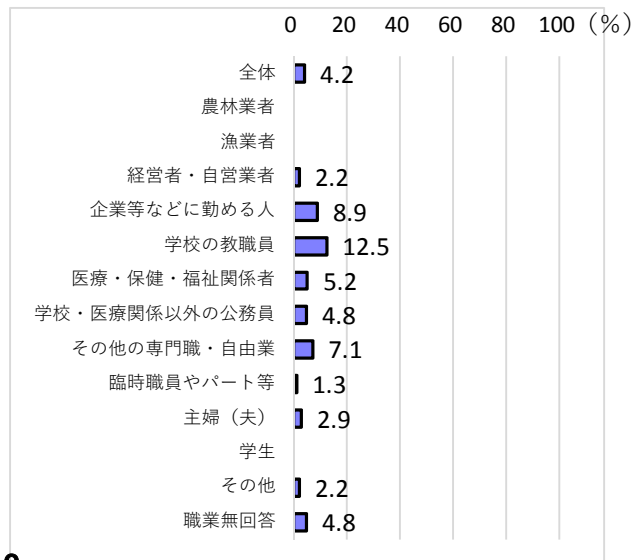
結婚問題で周囲の反対を受けること



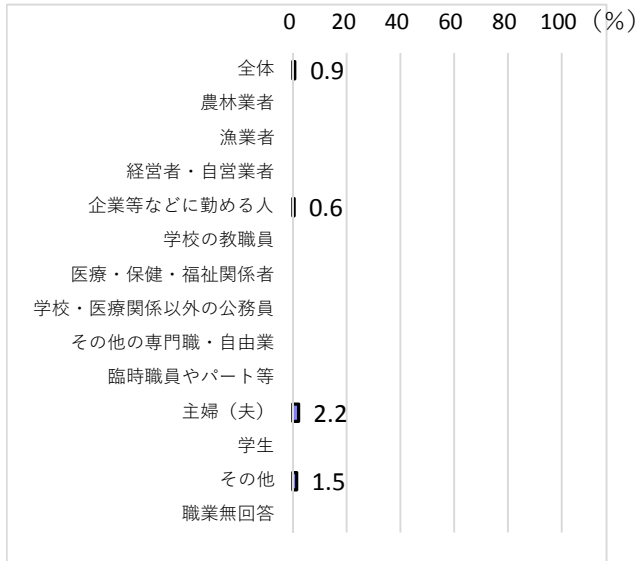
じろじろ見られたり、避けられたりすること



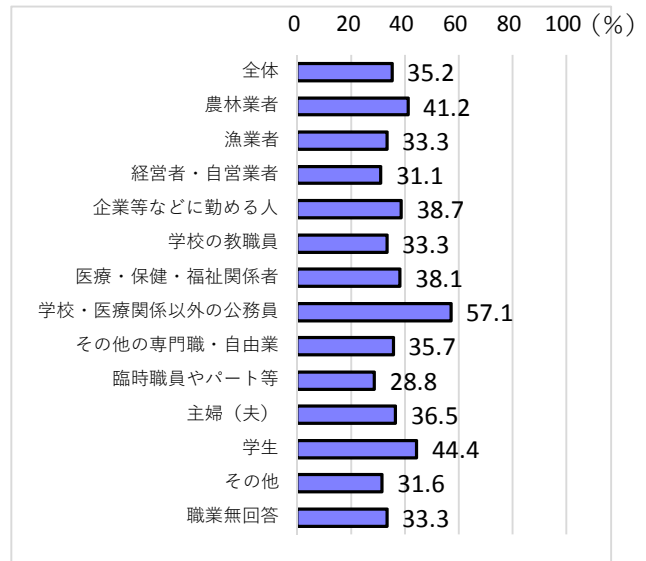
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



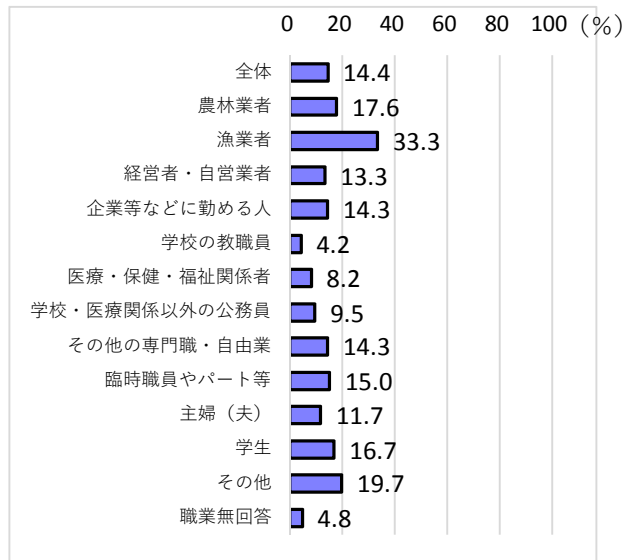
その他



特にない



わからない



全体	(N=914)
農林業者	(N=17)
漁業者	(N=3)
経営者・自営業者	(N=45)
企業等に勤める人	(N=168)
学校の教職員	(N=24)
医療等の関係者	(N=97)
その他の公務員	(N=21)
他の専門職・自由業	(N=14)
臨時職員・パート等	(N=80)
主婦(夫)	(N=137)
学生	(N=18)
その他	(N=269)
職業無回答	(N=21)

罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権問題の「見聞きした経験」について職業別にみると、大半の職業において「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が最も高くなっている。また、農林業者、臨時職員やパート等、学生では「就職、職場で不利な扱いを受けること」、学校の教職員では「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」(12.5%)の回答割合が最も高くなっている。